施策１－１　学校教育と幼児教育

【目指す姿】

主体的に社会の形成に参画し、豊かな人生を切り拓き、規範意識を持ち生涯を通じて学び続けていく力〈自立・創造・共生〉を持った人材が育成され、ふるさとに愛着を持ち、自らの可能性を切り拓く子どもたちが育つまちが実現しています。

【現状と課題】

■不登校やいじめ、貧困など社会構造の変化を背景として子ども達の抱える困難が多様化・複雑化しており、取り巻く環境の変化への対応が求められています。

■情報通信技術の進化に対応した教育ＤＸの推進、指導体制の構築やデジタル人材の育成が求められています。

■教育に携わる関係者が共通の目標を認識できるよう、教育カリキュラムの共有についての体制を整える必要があります。

■支援が必要な児童生徒が増加し、多様な教育ニーズや社会的包摂が求められているため、適切な体制を整える必要があります。

■安全安心で持続可能な質の高い教育環境の整備や、通学路の整備など、子供たちの安全確保のためのきめ細かい対応が必要です。

■部活動の地域展開について、一層の推進が必要です。

【関連する個別計画】

・松田町教育大綱

・第３期松田町子ども・子育て支援事業計画

・松田町立学校教職員の業務量管理・健康確保措置実施計画

【成果指標】

項目	2026 年（基準値）	2030 年（目標値）
英語教育実施状況調査　CEFR　A1 レベル相当以上の割合（中学校３年生）	54%	65%
ＩＣＴ環境を活用した授業の割合	92%	95%
町内産品を使用した給食回数（１校あたり）	１回／年	３回／年
部活動の地域展開（文化部）	０部	２部
将来の夢や目標を持っている子どもの割合（全国学力学習状況調査時において実施する質問紙調査）	※今後設定	※今後設定

【協働の取組】

町民	・コミュニティ・スクールへの参画 ・学校教育への理解・協力・見守り
団体・事業者	・コミュニティ・スクールへの参画 ・地域における見守り

【取組の方向性】

① 時代に対応した教育の推進

■目指す教育目標や子ども像を関係者間で共有し、毎年度見直しを行うことで、一貫性のある系統的な教育課程を編成します。

■ＩＣＴ機器やＡＩをはじめとするデジタル技術の活用については、情報収集や他自治体の先進事例を積極的に取り入れ、より効果的に運用していきます。

■時代に対応した「個別最適な学び」・「協働的な学び」を実践するため、教職員への幅広い研修の機会の充実を図るとともに、教職員が子どもたちと向き合う時間の充実を図るため、働き方改革を推進します。

■幼稚園・保育園・小・中学校へのＡＬＴ配置等により、継続的に英語指導を強化することで、国際社会の一員として世界中の人々と交流できる人材を育成します。

■支援が必要な生徒が増加する状況において、全ての子どもたちに学習機会を均等に与えられるよう学習支援員や介助員などの人員確保に取り組みます。

■食育の推進や「地産地消」を意識した学校給食を進めるため、給食研究会を開催し、学校栄養士間で情報を共有します。

【主な事業】

⑴保育園、幼稚園、小・中学校の一貫教育の推進

⑵ＩＣＴ機器を活用した教育の推進

⑶情報モラルの教育・指導

⑷教職員の指導力向上研修の実施と働き方改革の推進

⑸ＡＬＴ等の配置やオンライン英会話授業の実施などによる英語教育の充実

⑹個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実

⑺食育の推進

② 地域と学校の連携による教育環境の充実

■部活動の地域展開について、文化部の地域展開を目指します。

■児童・生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるよう、引き続き学校関係者、保護者、道路関係者、警察関係者による安全対策に取り組みます。

■小・中学校の総合的な学習の時間を活用し、地域の自然環境、環境保全についての理解や、町の歴史・文化・成り立ちへの理解を深めます。

【主な事業】

⑴部活動の地域クラブへの段階的な地域展開

⑵安全・安心な学校づくり

⑶地域の特色を活かした教育の推進

⑷地域に伝わる無形の伝統芸能の学びの継続

③ 教育環境の整備

■学校教育施設について、計画的に維持管理を行うことで、安全・安心に学ぶことができる環境を整えます。

【主な事業】

⑴認定こども園への移行のための施設整備

⑵寄幼稚園の改修事業

⑶松田中学校屋内運動場の空調設備の整備

⑷寄小学校内運動場の空調設備の整備

⑸給食施設の多様化

④ 幼児教育の推進

■幼児教育において育みたい資質・能力を育むために、より充実した教育ができるよう環境整備を進めます。

■保育ニーズが高まる中、松田町立松田幼稚園を認定こども園に移行し、保育及び教育環境を整えます。

【主な事業】

⑴認定こども園化に向けた体制づくり

⑵幼保連携の推進

⑶教諭の研修プログラムの充実

施策１−２　青少年健全育成

【目指す姿】

青少年を取り巻く環境が著しく変化する中、青少年が多様な体験やボランティア活動・奉仕活動を通じて豊かな人間性を育み、他者を思いやる心や自己有用感を高めながら、社会で生きる力と創造力を身につけるとともに、地域社会の一員として協働しながら主体的に自立できるよう、次代を担う子どもたちの意欲を受け止め、地域社会全体で育むネットワークづくりが進んだまちが実現しています。

【現状と課題】

■児童、生徒の減少傾向とニーズの多様化から、団体活動の確保と役員・指導者を担う人材が不足しており、特定の人が負担を抱え込む「なり手不足」が常態化しています。
■青少年指導員の任期ごとに自薦他薦含め人選に苦慮しています。
■青少年指導員に対して行われている人権関係の講演会について、事業の有効性の確保が求められています。
■熱中症リスクの急増により、夏季の野外活動（キャンプ、地域活動など）の中止や大幅な縮小となっています。
■子どもたちが体験活動や異年齢交流を通じて成長する貴重な機会が失われており、心身の健全な育成や思い出づくりの場の確保が求められています。
■ジュニアリーダースクール及び地域学校協働事業については、参加者確保につなげるため、事業内容の見直しを図る必要があります。
■地域ボランティアの人材確保及び活動内容の発信、連携に必要となるコーディネーターの確保が求められています。
■子ども達の活動の充実のため、所管課を超えた団体間の協力体制の構築が求められています。

【成果指標】

項目	2026 年（基準値）	2030 年（目標値）
青少年指導員数	10 人	15 人
寺子屋まつだへの登録者数	124 人	150 人
放課後子ども教室の年間開催数（年間）	25 回	35 回

【協働の取組】

町民	・ボランティアへの参加 ・当事業に対する理解と協力
団体・事業者	・有効な施策の遂行

【取組の方向性】

① 青少年団体の育成

■青少年の健全育成を進めるため、団体活動への支援を継続するとともに、活動団体との連携を強化し、活動の活性化に取り組みます。

■効果的かつ魅力的な事業内容を検討し、青少年指導員の人員確保と意識の向上に取り組みます。

【主な事業】

⑴青少年団体活動の支援（施設の優先利用、団体活動費助成）

⑵青少年指導者講習会の開催

② 青少年育成活動の場の充実

■地域学校協働活動（放課後子ども教室、寺子屋まつだ）を実施し、子どもたちの安全な活動拠点・居場所を設置します。

■中学生や高校生を対象としたリーダー研修を行い、年下の世代を指導・サポートする経験を積ませることで、将来の指導者候補を育成するとともに、世代間交流を進めます。

【主な事業】

⑴地域学校協働活動事業

⑵青少年体験事業（防災キャンプ、地域ボランティア活動等）

⑶ジュニアリーダースクールの開催

③ 家庭・学校地域の連携の推進

■事業の周知、紹介を進め、個人団体問わず人材を確保し、団体間の協力体制を強化することで、幅広い事業展開を図ります。

■地域学校協働活動（放課後子ども教室・寺子屋まつだ）を実施し、子どもたちの安全な活動拠点・居場所を設置します。

【主な事業】

⑴地域における交流の促進

⑵青少年問題協議会の開催

施策１−３　生涯学習

【目指す姿】

生涯学習センターを拠点に多様な学習機会や社会教育活動を展開し、世代や国を超えた学びと交流を通じて互いを認め合うとともに、誰もが生涯を通じて新しい知識や経験に挑戦し、主体的に地域の未来を創り出すまちが実現しています。

【現状と課題】

■町民の多様な学習ニーズに応えるため、学習機会や学習環境の充実が求められています。
■地域活動（サークル活動）への参加者の高齢化・固定化が進み、新たな参加者や担い手の確保が課題となっています。
■生涯学習センターの利用促進と、施設の老朽化への対応及び今後の施設のあり方の検討が求められています。
■国際化の進展に伴い、多様な文化への理解や交流の機会を充実させることが課題です。

【関連する個別計画】

・松田町公共施設等総合管理計画

【成果指標】

項目	2026 年（基準値）	2030 年（目標値）
生涯学習センター利用率	15%	30%
生涯学習センター登録団体数	22 団体	25 団体
生涯学習センターでのイベント開催数	15 回	30 回
生涯学習事業（町民大学等）の多世代・新規参加者の割合	−	10%
国際交流事業への参加者数	546 人	750 人

【協働の取組】

町民	・生涯を通じて学ぶ意欲を持ち、講座や社会教育活動に積極的に参加する。 ・学んだ成果を地域活動やまちづくりに活かす。
団体・事業者	・学習機会の提供や社会教育活動の運営に協力し、地域ぐるみで学び合いの場づくりを支える。

【取組の方向性】

① 生涯学習環境の整備

■町民の多様な学習ニーズに対応するため、学習機会や学習情報の提供の充実に取り組みます。

■身近な自然環境や歴史・文化などの地域資源を生かした事業を展開するとともに、生涯学習活動の拠点となる施設や設備の充実を図ります。

■生涯学習センターでの開催事業や活動団体の周知により、一人ひとりに「学び」への意識付けを進めます。

■図書資料や学習支援の充実など、学びを支える基盤の整備に取り組みます。

■生涯学習センターの老朽化への対応や効率的な管理運営を進めます。

【主な事業】

⑴生涯学習環境の整備・学習機会の提供

⑵松田の自然・歴史や文化を生かした生涯学習の推進

⑶生涯学習センターの活用、運営に係り提案及び実行する組織の創設

⑷生涯学習センター機能の再構築

② 社会教育活動を通じた生涯学習の推進

■各種事業の実施に絡めた新規団体の創出につながる普及啓発を行うとともに、既存団体と活動促進を図ります。

■町民の学習ニーズに対応するため、様々な指導者となる人材発掘に取り組み、社会教育団体や自主的なサークル育成の育成支援を進めます。

■生涯学習センターを活動の発表の場とするとともに、町文化祭等では実行委員として携わっていただくことで、相互理解を進めます。

【主な事業】

⑴ボランティア等指導者の発掘、サークル団体等育成・支援

⑵社会教育団体の育成支援

⑶人財バンク制度の推進

⑷地域クラブの展開

③ 生涯学習センター及び地域集会施設を活用した事業の展開

■生涯学習センターの積極的な活用、自主事業の取組の推進に向け、町民のニーズを常日頃から把握するとともに、関心のある層への拡充、幅広い情報の提供を進めます。

■地域施設を身近な学びと交流の場として活用し、地域に根ざした活動を支援します。

■施設の老朽化への対応や効率的な管理運営について研鑽を図ります。

【主な事業】

⑴生涯学習講座・教室等の充実

⑵生涯学習センター（大ホール）を活用した各種事業の充実

⑶地域活動（サークル活動）の推進

④ 国際交流事業の展開

■国際交流事業を通じて、多様な文化への理解や国際感覚の醸成及びグローバル人材の育成を図ります。

■町民や関係団体と連携し、交流機会の充実と国際交流の輪の拡大に取り組みます。

【主な事業】

⑴国際交流事業の推進

⑵地域イベント等での交流

施策１−４　地域文化の創造

【目指す姿】

町の貴重な文化財や歴史的遺産を次世代へと確実に引き継ぐとともに、地域の教育や観光、まちづくりに積極的に活用することで、先人が築いた歴史の重みと魅力を肌で感じられる環境を整え、町民の郷土への誇りと愛着が育まれているまちが実現しています。

【現状と課題】

■松田城、大名行列、祭囃子といった歴史・文化を伝えていくような展示施設や関連行事が少ない状態です。

■団体の固定化、高齢化が進んでいることに加え、個人の時間の使い方・価値観の変化により、伝統行事や文化財関係事業への無関心層が増えています。

【成果指標】

項目	2026 年（基準値）	2030 年（目標値）
民族芸能伝承教室の応募者	10 人	15 人
指定文化財数	18	25
講座の参加者数	277 人	350 人

【協働の取組】

町民	・地域の祭りや伝統芸能、郷土芸能などの担い手として積極的に参加し、次世代の子どもたちへその技術や精神を伝えていく。 ・松田町の歴史や文化に対する理解を深め、その魅力を町内外へ積極的に発信することで、町のイメージアップや関係人口の創出に協力する。
団体・事業者	・保有する資源や専門性を活かした文化事業への協力や、町民の文化活動に対する支援・連携を行う。

【取組の方向性】

① 文化活動団体の育成と支援

■各種事業の実施に絡め、新規団体の創出につながる普及啓発を行うとともに既存団体の活動促進を図ります。

■新たに何かを行いたい、学びたいという方、また転入された方にも町をより知っていただくため、幅広い情報の提供を進めます。

■団体等の自主的な文化活動の活性化を進めるため、指導者や活動団体の育成・支援を継続して実施します。

【主な事業】

⑴文化活動団体の育成・支援

⑵文化芸術活動の支援

② 文化財の保存・活用

■文化財を保全・活用していくとともに、地域文化の伝承と併せて、担い手の育成を進めます。

■古文書講座・歴史講座や文化財ウォークの開催を通じて、町重要文化財の保護や町民への普及啓発活動を行います。

■子どもたちが興味を持ちやすい体験型の教材や、デジタル技術を活用した学習プログラムが整備されておらず、単なる「古いもの」「堅苦しいもの」として捉えられてしまっているため、地域（保存会や熟練者）と学校現場の双方をつなぎ、出前授業や体験学習を行います。

【主な事業】

⑴文化財維持管理の補助・啓発

⑵講座等による地域の文化・歴史学習等の実施

⑶伝統芸能の保存・伝承の支援

施策１−５　スポーツ・レクリエーション

【目指す姿】

高齢化や健康志向の高まりに対応し、子どもから高齢者まで誰もがライフステージに応じて気軽に体を動かせる環境が整えられ、スポーツを通じて心身の健康を保ち、生きがいを感じられる地域社会が広がっているまちが実現されています。

【現状と課題】

■スポーツに対する町民のニーズの多様化により、子どもの運動能力に個人差が多く見られます。

■少子高齢化により団体構成員の高齢化と会員減少が進んでいます。

■町、スポーツ推進委員、地区スポーツ員の連携強化を図り、各地域の活動の高まりから町全体のスポーツに対する意識高揚が課題です。

■特定の世代（子どもや高齢層の一部）や、特定の競技に利用が集中しており、「軽く体を動かしたい」というニーズへの受け皿が必要です。

■施設の有効性として、老朽化に伴う修繕費や光熱水費が高騰等の行政負担が増大している一方で、高齢者の健康づくりや、子どものスポーツ環境を守る観点から、受益者負担の検討が課題です。

【成果指標】

項目	2026 年（基準値）	2030 年（目標値）
スポーツ登録団体数	37 団体	40 団体
スポーツ推進委員数	8 人	10 人
スポーツ施設の利用人数	57,535 人	65,000 人
スポーツイベントへの参加者数	872 人	1,000 人
スポーツ合宿数	10 団体	15 団体

【協働の取組】

町民	・スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ、地域のレクリエーションサークルなどにおいて、指導者や運営スタッフとして積極的に参画し、活動の継続と発展を支える。 ・スポーツ・レクリエーションの行事や大会への参加・運営協力を通じて、地域住民同士の絆を深め、お互いを認め合える温かい地域社会づくりに寄与する。
団体・事業者	・スポーツ教室の開催や大会運営への協力、保有する施設・資源の活用などを通じて、地域全体のスポーツ振興に協力する。

【取組の方向性】

① 誰もが生涯主役となれる環境の充実

■子どもの体力向上に向けた諸施策を展開していくとともに、スポーツを通じた町民による世代間交流等の展開を図ります。

■生涯にわたるスポーツ活動の支援・充実を継続して行います。

■共生・共助社会の実現を図るため、世代、性別、障がいの有無に捉われないニュースポーツを推進します。

■町スポーツ協会事業の補助内容を検討し、スポーツの普及に係る役割を明確化します。

【主な事業】

⑴各種スポーツ大会・教室の開催

⑵スポーツを楽しめる環境の充実

⑶松田町体育館のあり方検討

⑷ボッチャ教室及び大会の開催

② 指導者・諸団体の育成

■地域全体で幼児・児童・生徒の障害者理解を促進します。

■世代、競技を問わず各種スポーツに応じた指導者の育成と資質向上のため、リーダー養成講座等を開催します。

【主な事業】

⑴指導者・リーダー養成研修の開催

⑵各種スポーツ団体の育成